

## 第4章 将来像を実現する ための政策体系

上京区では、まちづくりの課題や、新しい創造力で輝く未来を見据えながら、区基本計画の基本理念「上京新時代」文化と絆で未来を創る」とのもと、その理念を実現するための4つの将来像に向けて、次の5年間のまちづくりを進めます。

第4章では、4つの将来像を実現するための14の方針（政策）と、その方針に沿って、今後5年間における34の推進施策と127の取組例を掲げるとともに、取組の中心となる実施主体を「地（地域（区民、事業者等）」）、「区（上京区役所及び区内行政諸機関）」、「市（京都市及び国、京都府等）」の区分で示し、多様につながって、上京の輝かしい未来を創り上げます。

また、「上京らしさ」「モデル性」「先進性」等のある「芽が出る、広がるノリーディングプロジェクト」を設定し、重点的に取り組んでいきます。



芽が出る、広がる！  
リーディングプロジェクトとは？



上京らしさ

上京の強みを生かすなど、上京らしい取組であること



モデル性

区内に広く効果が及ぶ取組であること



先進性

新型コロナウイルス感染症の体験・知見などを踏まえ、これまでの取組に新たな視点を加えた取組であること



レジリエンス

可能な限り、民間主導、かつ多くの主体者が関わることにより、地域力の向上や持続可能性を高めることが期待される取組であること



実現可能性

区基本計画の計画期間が、5年間の短期間であることから、実現可能性が高く、また、地域や民間の知恵を生かす意味からも、既に先進的な例がある取組であること

1 4つの将来像を実現するための方針



幸せを分かち合うまち

方針1 文化を大切に作るまちづくり

方針2 多様な絆で支えるまちづくり

方針3 環境共生と脱炭素のまちづくり



安心安全に暮らせるまち

方針1 体感治安の高いまちづくり

方針2 「自助」・「共助」・「公助」が連携した災害に強いまちづくり

方針3 交通安全の意識が高いまちづくり



にぎわいを創出し、豊かさを実感できるまち

方針1 地域産業の活性化と魅力発信

方針2 若者が活躍し、住みたくなるまちづくり

方針3 商店街等の活性化

方針4 空き家等を活用したまちづくり

方針5 地域課題を解決する持続可能な観光の推進



ひとりひとりが輝き、希望の持てるまち

方針1 誰もが居場所を持ち、いきいきと暮らすことができるまちづくり

方針2 子どもの健やかな成長と若者の活躍を応援するまちづくり

方針3 高齢者が生きがいを持てるまちづくり

## 2 将来像を実現するための取組方針

未来像  
1  
ライフスタイルから見た

### 幸せを分かち合うまち

上京区では、悠久の歴史の中で培われた多彩な文化が日常生活に息づき、地藏盆や夏祭りなどの地域行事が大切に受け継がれています。また、文化の源ともいえる鴨川の清らかな流れや、御苑・神社仏閣等の緑が四季を彩る山紫水明の豊かな自然と調和した節度ある暮らしが営まれてきました。

しかしながら、人口減少の本格化や、少子・高齢化の加速、地域文化等を支える担い手不足の顕在化等により、地域コミュニティにおける文化や行事等の継続が危ぶまれており、住民同士がライフスタイルや価値観の多様性を尊重し合いながら、多くの住民が参加できるまちづくりが求められています。

また、環境面でも、京都市が全国に先駆けて掲げた「2050年までの二酸化炭素排出量正味ゼロ」の目標達成など、持続可能なまちづくりに向け、地球温暖化を防ぎ豊かな自然環境を守るための世界・国レベルでの取組と併せ、地域における先人の営みも参考にしながら、環境に配慮した暮らしを実践していく必要があります。

このため、区民一人一人が、上京区が誇る文化力、地域力を土台に、環境とも調和したライフスタイルを実践し、幸せを分かち合うことができるまちづくりを進めます。

### 方針1 文化を大切に作るまちづくり

上京区は、風情のある京町家や路地が数多く存在し、着物がよく似合うまちです。

また、地藏盆をはじめ様々な年中行事が行われ、町並み・暮らし・文化が一体となって、身近な生活の中で大切に受

け継がれています。

そして、「ほんまもん」の文化や芸術が脈々と継承され、「上京茶会」や「上京新能」等を通じて、区民が気軽に上京ならではの文化を愉しむことができます。

近年、生活様式や価値観が多様化し、生活に根差した文化が薄れ、伝統文化に触れる機会も減少傾向にありますが、一方で、古くから日本で親しまれてきた文化が国内外で高い評価を受けるなど、その価値が見直されてきています。

このため、文化庁の京都移転も契機としながら、上京区の宝である豊かな文化を継承し、更に磨きをかけることで、人々の生活の質とまちの豊かさの向上につなげます。

#### 取組の具体例

#### 暮らしに息づく豊かな文化等の継承・発展

地藏盆や年中行事等の身近な文化の継承・発展	地	区	市
伝統文化や芸能に親しむ機会づくり	地	区	市
歴史や文化の魅力を次世代に伝える取組	地	区	市
京町家や路地のある町並みの魅力発信	地	区	市

#### 文化力の向上と魅力発信

文化庁との連携による文化力の向上	地	区	市
豊かな歴史や文化を活用した上京の魅力発信	地	区	市
和装を気軽に楽しむ機会づくり	地	区	市

芽が出る、広がる / リーディングプロジェクト

#### 文化庁京都移転記念「上京大茶会」プロジェクト

核家族化や生活スタイルの変化等により、地域独自の伝統・生活文化に触れる機会が減少しています。

そのため、地域で育まれてきた文化に親しみ・触れることができる機会の創出等を通じた地域文化の継承・発展が求められています。

本事業では、文化庁の全面的な移転を記念して、「上京大茶会」を実施し、上京全体の地域力や都市格の向上を図ります。



#### こんな取組が実施されています！

令和元年11月に、上京区140周年記念事業として、上京区のシンボリック的存在であり、区民の憩いの場でもある京都御苑において、全17学区が連携して企画・運営を行う「京都御苑で上京大茶会」が実施され、約1500名の来場者が、野点・立礼のお茶会を堪能されました。



方針2 多様な絆で支えるまちづくり

上京区では、自治会・町内会単位で自治・福祉・防災活動が行われ、地域行事を通じて、隣近所がお互いに顔の見える「近助<sup>※</sup>」の関係を大切にしてきました。

近年、単身世帯や共同住宅比率の増加等とも相まって、地域活動への参加者が固定化・減少傾向にあります。一方で、東日本大震災やコロナ禍の経験から、改めて、隣近所をはじめとする絆の重要性が意識されるようになってきています。

このため、子どもや若者から高齢者、障害者、外国籍市民など多くの人同士のつながり・交流を促進し、多様な絆や新たな視点・発想を、まちづくりに生かしていく取組を推進します。

※「近助(きんじょ)」  
 一般に「自助」「共助」の必要性が問われており、本計画では共助の中でも、「顔の見える関係」である隣近所との助け合い等を、「近助」と表現している。  
 この「近助」がより強められることにより、「共助」としての地域力が強められることが期待される。



取組の具体例

「近助」を大切にすするまちづくり

隣近所をはじめとする「顔の見える」関係づくり	地 区 市
地蔵盆、夏祭り、体育祭等を通じた交流の促進	地 区 市
学区ごとのまちづくりビジョンの策定	地 区 市
上京区民ふれあい事業等を通じた交流の促進	地 区 市
ICT技術を活用した新しい関係づくりなど地域での多様なコミュニケーション手段の拡充	地 区 市

多層で多様な主体が重なり合うまちづくり

年代や国籍などを超えた多様な人々が協力し合い活躍できる環境づくり	地 区 市
区民のまちづくり活動の活性化と活動団体の交流促進	地 区 市

芽が出る、広がる / リーディングプロジェクト

地域をつなぐICT活用プロジェクト

世界的な感染症の拡大や、大規模な自然災害等によって、日常生活や地域活動が停滞するなどの支障が生じています。

このため、情報、サポート等の不足による不安や孤独を感じておられる方への支援や居場所づくりが課題となっています。

本事業では、高齢者等を対象に、手持ちのスマートフォンをはじめとするICTを活用した地域や家族等との情報通信手段などを学ぶことで、災害時や緊急時における地域コミュニティの強化を図ります。



こんな取組が実施されています！

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けた外出自粛や、災害発生時に自宅に留まることを余儀なくされる高齢者が、手持ちのスマートフォン等を使い簡単に周囲とのコミュニケーションを図れるよう、上京区社会福祉協議会、各学区の社会福祉協議会及び上京区役所が連携し、区内17学区の各種団体を対象に、スマホ教室が開催されています。

地球温暖化やごみ問題をはじめとする環境問題は、わたしたちの暮らしや生態系に様々な影響を及ぼすようになってきました。

そのため、日々の生活の中で、プラスチックによる海洋汚染等意識し、マイボトルやマイバッグを持ち歩く人が増えています。

こうした自然に配慮した行動は、持続可能なまちづくりの原点であるとともに、地域における憩いや安らぎ、周囲との調和や快適な暮らしを考えるきっかけにつながります。

京都市においても、「脱炭素社会<sup>※</sup>」の実現に向け「2030年度までに二酸化炭素排出量の40%削減」を掲げており、ごみ減量の取組としての2R（リデュース（ごみの発生抑制）、リユース（再使用））及び分別・リサイクルに、さらに取り組むとともに、節電や地産地消の推進など、家庭やコミュニティにおける環境にやさしい暮らしの実践が求められています。

また、上京区では、これまで、京都御苑や鴨川に代表される四季折々の豊かな自然環境と区民の日常生活が調和し、都市の中にあつても豊かな生物多様性が守られてきました。

このため、今後も、日常生活の中で自然環境との共生を意識した暮らしが営まれるように、環境問題への気付きや学びの場の創出などに取り組みます。

※脱炭素社会

地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出源となる化石燃料の使用から脱却し、持続可能な発展が可能となった社会。



取組の具体例

暮らしの中で環境を大切に取る取組

環境に配慮したライフスタイルの実践	地
身近な自然や緑空間を守る取組の促進	地
緑化活動を通じたコミュニティづくり	地
「かご掃き」、「打ち水」の推進	地
エコでつながるまちづくり	地
地産地消の推進と魅力発信	地
作り手の思いを大切に消費の普及啓発	地
使用済めんぶら油の回収や古紙のコミュニティ回収など、区民と行政の協働によるリサイクルの推進	地
循環型社会の構築に向けたリデュース・リユースの実践、質の高いリサイクルの推進並びにリニューアブル <sup>※</sup> に関する情報発信	地
生物多様性を推進し、自然と共生するまちづくり	地
鴨川の「天然鮎」を戻す環境保全・啓発活動の推進	地
「京都御苑」等の豊かな自然に触れる機会の創出	地
「堀川ほたるプロジェクト」が育む自然環境との共生	地
※リニューアブル	地

※リニューアブル  
石油等の化石資源と比べて短時間で再生できる資源（再生可能資源：植物などの天然資源）を原材料として利用することで、資源の枯渇や温室効果ガスの発生を抑制する考え方。

芽が出る、広がる！リーディングプロジェクト

「立売」で育む地域の絆と地産地消推進プロジェクト

上京区内でかつて行われていた「立売」に習い、地域や関係機関等が連携し、区内や近郊で採れた農林水産物を「ちびっこ広場」等を活用して販売するマルシェを開催します。

こうした取組を通じ、住民同士の交流の場、環境保全やエシカル消費<sup>※</sup>等について学ぶ機会を創出します。

※エシカル消費（倫理的消費）  
消費者それぞれが各自にとっての社会的課題の解決を考慮したり、そうした課題に取り組む事業者を応援しながら消費活動を行うこと。

二 こんな取組が実施されています！

成逸学区、西陣学区、桃菌学区、聚楽学区の4学区が主催する朝市「西陣の朝市マルシェ」が、定期的に西陣公園で開催されています。  
会場では、飲食、物販等のブースを設け、地域の人々の交流、親睦の場となっています。



安心安全から見た  
将来像  
**2**

# 安心安全に暮らせるまち

上京区は、平成27年7月にオール上京区で「世界」安心安全・おもてなしのまち京都 市民ぐるみ推進運動」上京区推進協議会を立ち上げ、「防犯対策部会」、「防災・環境整備部会」、「交通安全部会」を設置し、警察・消防・区役所が連携して、安心安全に向けた様々な取組を推進してきました。

その結果、令和元年の「刑法犯認知件数」が、前区基本計画開始時の平成23年から約45%減少※するなど、大きな成果が得られています。

しかしながら、防犯面では、上京区の特性として、刑法犯認知件数に占める自転車盗の割合が高く、また防災面では、都市構造上、上京のまちならではの密集市街地における防火対策や、近年多発している地震や豪雨、大型台風などの自然災害への防災減災対策が課題となっています。また、交通安全全面に関しては、自転車や高齢者に関わる事故の割合が高い傾向にあります。

このため、引き続き、地域、事業者、行政が一体となり、上京区の特性を踏まえた防犯・防災・交通安全対策を進めます。

※刑法犯認知件数（上京区）

平成元年版 京都市統計書 1153件（平成23年） ↓ 629件（令和元年）

## 方針1 体感治安の高いまちづくり

上京区では、これまで、地域や行政をはじめとする様々な機関が連携し、地域の特性に応じた防犯対策が実施されてきました。その結果、住民の高い防犯意識が醸成され、犯罪を未然に防止する「地域の目」が行き届いたまちとなっています。しかしながら、自転車盗は依然として高止まりとなっており、また、空き家の発生による地域力の低下やいわゆる民泊施設等と地域との間での良好な関係づくりといった課題も顕在化してきています。

このため、日頃の声掛けやパトロール等を通じて地域で

のつながりを強めるとともに、上京区で学ぶ大学生をはじめとする若い世代が「地域の目」となることで、地域の防犯力の強化、犯罪の未然防止など、住民が安心して暮らすことができるまちづくりに取り組めます。

### 取組の具体例

#### 「地域の目」による犯罪の未然防止

自治会・町内会への加入促進	地	区	市
声を掛け合う「近所付き合い」	地	区	市
大学生をはじめとする若者の地域活動参画の促進	地	区	市

#### 高い防犯意識と犯罪を許さない気運の醸成

青色防犯パトロールの実施	地	区	市
「こども110番のいえ」への点検・整備登録	地	区	市
「子ども見守り隊」による声掛け運動の実施	地	区	市
散歩やジョギングなど「ながら防犯活動」の推進	地	区	市
各種防犯イベント（防犯教室・講習会や啓発活動）の実施	地	区	市

#### 犯罪を許さない環境づくり

自転車盗対策等の推進	地	区	市
自転車の防犯登録や損害賠償保険への加入促進	地	区	市
地域見守り箱※等を活用したパトロールの推進及び設置拡充	地	区	市
防犯カメラの設置促進	地	区	市
地域の安心安全情報の発信	地	区	市

#### 空き家等の防犯対策の推進

地域における空き家対策の促進	地	区	市
地域と民泊事業者間における協定締結の推進	地	区	市
や、地域と行政が連携した民泊パトロールの実施	地	区	市
不良な生活環境（いわゆる「こみ屋敷」）を解消するための取組の実施	地	区	市

※地域見守り箱

地域の安心安全を守る取組の一つとして、小学校をはじめ区内各所に設置されており、住民が散歩や買い物の中で、箱の中にあるカードに巡回記録を記載することで、住民の防犯意識の向上や、犯罪等を未然に防ぐ「地域の目」の醸成に役立っている。

## 方針2 「自助」・「共助」・「公助」が連携した災害に強いまちづくり

上京区では、自主防災会や消防団、自衛消防隊などによる防災活動が地域主体で活発に行われているとともに、スパーやホテル等とも防災協定を締結するなど、災害の発生に備えた取組も積極的に進められています。

しかしながら、近年、全国的に、地震や豪雨、台風などの自然災害が多発化・大規模化しているため、地域における防災力の二層の強化が求められていることに加え、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、分散避難、災害対策等の見直しも必要になっています。

また、上京区の火災発生件数は、市内でも比較的低い状況にありますが、密集市街地・細街路が多い上京区の特徴を踏まえ、引き続き延焼火災を想定した対応力の強化を図っていく必要もあります。

このため、これまで築かれてきた上京区の地域力を基盤としながら、地域行事を活用した防災イベントの開催や、次代の担い手となる子どもたちへの防災教育など、命を守る区民一人一人の「自助」の強化はもとより、隣近所（近助）、高齢者・障害者等の災害時要配慮者や、通勤通学者・観光客といった帰宅困難者を地域全体で守る「共助」や行政による「公助」の力を高め、すき間なく連携することによって、より一層災害に強いまちづくりを進めます。

## 取組の具体例

### 区民一人一人の命を守る取組

いざという時に隣近所で助け合える関係づくり(近助)	地	区	市
「上京の安心安全点検日(毎月25日)」に合わせた非常持ち出し品や家庭用備蓄品の自主的な点検・準備	地	区	市
学校や地域での防災教育の充実	地	区	市
地域の災害史から学ぶ機会の創出	地	区	市
日頃からのハザードマップによる避難場所と避難経路の確認	地	区	市
各種防災イベント(防災教室・講習会や合同訓練)の実施と参加	地	区	市

### 地域防災活動の推進

自治会・町内会への加入促進(再掲)	地	区	市
地域一斉清掃を通じた地域の安心安全点検の実施	地	区	市
各学区での防災訓練の充実及び防災ゲーム等の防災教育ツールを活用した防災意識の浸透を図る取組の充実	地	区	市
初期消火に対応する消火器設置場所の共有	地	区	市
災害時要配慮者や在宅避難者への支援の充実	地	区	市
新たな避難所の確保及び感染症予防を考慮した避難所運営力のアップ	地	区	市

### 災害対策機能の強化

災害時に備えた地域団体、事業者等と行政との連携強化	地	区	市
学校や地域での防災教育の充実(再掲)	地	区	市
新たな視点を取り入れた上京区総合防災訓練の実施	地	区	市
社寺等の協力による防災拠点づくり	地	区	市
歴史都市京都における密集市街地・細街路対策	地	区	市
新たな避難所の確保及び感染症予防を考慮した避難所運営力のアップ(再掲)	地	区	市
備蓄物資配備の拡充	地	区	市

## 芽が出る、広がる / リーディングプロジェクト

### 社寺等の協力による地域の防災拠点づくりプロジェクト

災害は、いつ起こるかわかりません。そのため、平時から、万が一の災害に備えた、避難施設や支援物資等の供給拠点の多様化を通じた災害対応力の向上を図る必要があります。

本事業では、上京区内に多く立地する社寺等と地域、行政が連携し、災害発生時の避難者の受入・支援物資等の供給拠点の充実を図る取組を進めます。



### こんな取組が実施されています!

成逸学区では、平成30年1月に「町内会を基本とした防災のまちづくり」の取組として、学区の指定避難所である北総合支援校の補充避難所として、興聖寺との間で、「成逸地域避難所協定」を締結されました。

また、多くの学区において、スーパーやホテルをはじめとする事業所等との災害時支援の協定を締結されるなど、防災対策の充実に取り組まれています。

## 方針3 交通安全の意識が高いまちづくり

上京区では、地域での積極的な見守り活動や、地域と行政等の連携による交通安全啓発・指導、交通環境の整備等により、交通事故の発生件数は減少傾向にあるにもかかわらず、自転車や高齢者に関わる事故の割合が高止

まりしています。

これは、起伏の少ない上京区においては、多くの区民が自転車を利用していますが、交通ルールやマナーに対する意識の低さや、幅の狭い道路など、安全な歩行空間が確保できていないことが、その原因とされています。

一方で、道路の乱横断や歩きながらのスマートフォン操作など、歩行者の交通ルール違反やマナーも問題視されています。

このため、歩行者、自転車、自動車がお互いを思いやり安全に通行できるよう、交通ルールやマナーの啓発及び環境整備等に取り組みます。



## 取組の具体例

### 歩行者に関する交通安全対策

歩行者の交通ルール・マナーの啓発	地	区	市
「子ども見守り隊」による交通指導の実施	地	区	市

### 自転車及び自動車運転者のマナー向上と安全な環境の整備

各種交通イベント(交通安全教室・講習会や啓発活動)の実施等による交通マナー意識の向上	地	区	市
自転車走行推奨帯(矢羽根マーク等)の設置による走行環境の整備	地	区	市
運転免許証を自主返納しやすい環境づくり	地	区	市
ゾーン30*の推進	地	区	市

\*ゾーン30

自動車事故抑止のため、市街地の住宅地など生活道路が密集する区域(ゾーン)を指定し、車の最高速度を時速30キロに制限する交通規制を実施することにより、その他の安全対策を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内における車の速度や、通り抜けの抑制等を図る生活道路対策。

まちの活力から見た  
将来像  
**3**

**にぎわいを創出し、豊かさを実感できるまち**

上京区では、西陣織をはじめとした地域産業の隆盛により、まちや商店が活気に溢れ、堅固な地域コミュニティが形成されてきました。

しかしながら、地域産業を取り巻く環境は、生活スタイルの変化等を背景に厳しい状況にあります。

また、観光面では、豊かな歴史、多彩な文化、数多くの史蹟や神社仏閣など、魅力的な地域資源が数多く存在していますが、京都観光の時間・季節・場所の分散化の一翼を担い、地域課題の解決に貢献するまでには至っていません。

このため、平成31年に策定された「西陣を中心とした地域活性化ビジョン」とも連携し、これまで蓄積されてきた最高峰の技術力やブランド力、豊かな文化、観光資源を生かしながら、若者をはじめとした多様な担い手や事業者、大学、金融機関等の連携を生み出し、いわば「上京区版スタートアップ・エコシステム」とも言うべき新産業や上京区ならではの持続可能な観光のスキーム（枠組み）を創出し、まちの活力や賑わいにつなげます。

※スタートアップ・エコシステム  
革新的なアイデア・技術等をもとに、新しい形態のサービスやビジネスを展開する企業の中でも、短期間で急成長を志向する企業をスタートアップ企業という。  
「スタートアップ・エコシステム」とは、起業家、起業支援者、企業、大学、金融機関、公的機関等が結びつき、優れた人材・技術・資金を呼び込み、発展を続ける仕組みのこと。



方針1 **地域産業の活性化と魅力発信**

上京区には、西陣織産業をはじめとする高いデザイン力や技術力を持つ企業が多く集積し、付加価値の高いものづくりの文化が息づいています。

一方で作り手の高齢化等が進んでおり、今後は、豊かなものづくりの風土を生かして、若手の職人やクリエイティブな事業者など多様に呼び込み、定着につなげていくことも重要です。

このため、地域の産業を守りながら、さらなる展開を図るため、これらの魅力発信や地域企業と若者等の連携に取り組めます。

**取組の具体例**

**上京区版スタートアップ・エコシステムの形成**

地域や金融機関等と連携したスタートアップ（起業家）支援	地 区 市
地域企業と若者等とのマッチング機会の創出	地 区 市
空き家等の空きスペースを活用したオフィスの創出支援	地 区 市

**地域ならではの産業等の魅力発信**

西陣織産業をはじめとする「付加価値の高いものづくり文化」の発信	地 区 市
職住近接をはじめとする多様な働き方の発信	地 区 市

方針2 **若者が活躍し、住みたくなるまちづくり**

上京区では、区内の人口の約1割を若者（20～24歳）が占めているほか、多くの大学生が上京区で学び、生活しています。

近年は、大学生をはじめとする若者と地域やNPO等が結びつき、社寺と連携した賑わいの創出や、空き家の有効活用等といった地域課題の解決に向けた取組も進んでいます。

このため、大学と地域の交流や、若者の目線で実施するまちづくり活動を積極的に支援し、若い力が地域で活躍できるまちづくり、若者が住みたくなる環境整備を進めます。

**取組の具体例**

**若者やNPO等と地域との交流、定住促進**

地域と協働するまちづくり活動の育成	地 区 市
まちづくり活動団体同士の交流による新たなつながりづくり	地 区 市
婚活を通じた出会いの場の創出	地 区 市
空き家を活用した定住促進	地 区 市

**大学生と地域の連携促進**

大学生による地域参画の支援	地 区 市
大学生が取り組むまちづくり活動の促進	地 区 市
区内の大学とのまちづくりに関する包括連携協定の締結	地 区 市



芽が出る、広がる / リーディングプロジェクト

### 地域企業と大学生による地域課題解決プロジェクト

上京区では、地域と大学生の連携によるまちづくり活動が活発に行われています。

しかし、大学卒業と同時に、就職等により上京区を離れる学生が多く、地域企業の人材確保を困難にしています。

本事業は、地域企業（京都中小企業家同友会 上京支部）と大学生が協働し、地域を知るまち歩きや企業訪問、大学生ならではの発想や視点を生かした新商品の開発等を行い、地域企業が抱える経営課題の解決や地域の担い手の育成、地域の活性化につなげる取組として実施します。



### こんな取組が実施されています！

令和2年12月、地域企業と同志社大学が連携し、刺繍、カフェ、インテリア関連の分野で、大学生ならではの発想や視点で課題に挑戦するプロジェクトが始動しました。地域を舞台に大学での学びを社会に生かす取組を通じ、若者の地域への定着や、新たなまちの活力の創出を目指します。

## 方針3 商店街等の活性化

区民の衣食住を支える身近な商店街や商店は、日常の交流や暮らしに必要な場所であるとともに、そこ

で働く人々は、地域コミュニティの貴重な担い手でもあります。

こうした地域に根ざした商店街等が果たしている様々な役割を将来にわたって維持、発展させるため、まち歩きを通じた魅力発信等に取り組みます。

### 取組の具体例

#### 地域に根ざした商店街等の活性化

商店と消費者との交流の促進	地	区	市
商店街の魅力伝えるまち歩き等の実施	地	区	市
商店街における生活・健康情報の発信	地	区	市
空き店舗の活用促進	地	区	市

## 方針4 空き家等を活用したまちづくり

上京区では、まちの活力低下、防災、環境面等の課題に対応するため、これまで、地域を中心とした空き家対策が進められてきました。

一方で、空き家を地域の資源として捉え、若者や子育て世代をはじめとした定住促進や新たな交流拠点として活用するといったポジティブな発想による取組がこれらのまちづくりに求められています。

このため、地域や専門家と連携を図りながら、空き家の有効活用や地域で宿泊施設を営む方々の協力も得て地域の活性化に取り組みます。

### 取組の具体例

#### 空き家の活用促進

適切な相続や登記に向けた空き家対策の専門家との連携

地	区	市
---	---	---

学区単位での空き家流通に関する仕組みの構築

地域のコミュニティスペース等としての空き家活用

#### 宿泊施設運営者と取り組む地域活性化

宿泊施設運営者の地域参画の推進	地	区	市
宿泊施設滞在者に向けた地域の魅力発信	地	区	市

芽が出る、広がる / リーディングプロジェクト

### 空き家流通対策の仕組みの構築プロジェクト

上京区内では、数多くの空き家が生じています。そのため、空き家を有効活用し、人口増等を図るため、学区を軸に行政等と連携して空き家流通の仕組みを構築します。



### こんな取組が実施されています！

正親学区では、学区と町内会、専門家、行政等の連携により、空き家対策に取り組まれています。活動に当たっては、これまでの住民と住民福祉協議会との信頼関係をもとに、より一層、空き家対策を進めていくため、NPO法人を設立し、空き家の問題を、所有者等だけの問題ではなく、地域のまちづくりの問題と捉え、関係者と協力しながら、いつまでも住み続けられる賑わい・活気あるまちづくりに取り組まれています。

**方針5** 地域課題を解決する  
持続可能な観光の推進

上京区は、豊かな歴史、多彩な文化、数多くの史蹟や神社仏閣等、地域ならではの魅力が数多く存在し、まち歩き等を通じ、奥深い歴史・文化に触れることができます。

また、こうした従来型の京都観光に加え、地域産業の魅力を発信する取組として、西陣織をはじめとする高いデザイン力・技術力を目の当たりにできる工房見学など、産業と連携した「上京ならではの」の観光スタイルの創造も求められています。

このため、上京区を訪れるきっかけとなる多様な観光メニューの開発や産業の振興、まちづくりにつながる仕組みづくりなど、地域課題を解決する持続可能な「上京型観光スタイル」の創出を図ります。



**取組の具体例**

上京ならではの観光スタイルの創造・推進

「上京型観光モデル創造推進協議会」の設置	地
区	
市	

「ほんまもん」と触れ合う観光の充実

上京に息づく伝統・産業・生活文化、社寺及び文化財等に触れる機会の創出	地
区	
市	

歩いて楽しむ観光の充実

まち歩きマップやスマートフォンアプリを活用した観光情報等の発信	地
区	
市	
公共交通機関の乗り継ぎ等に関する便利な情報等の発信	地
区	
市	
まち歩き観光の拠点づくり	地
区	
市	

芽が出る、広がる / リーディングプロジェクト

「地域と共存する上京ならではの観光スタイル」の創造・推進プロジェクト

新型コロナウイルス感染症によって、京都市全体がコロナ以前の観光に戻らないポストコロナ社会における観光の在り方を模索しています。

その一つのモデルとして、「上京型観光モデル創造推進協議会」を設置し、「地域と共存する上京ならではの観光スタイル」を創造・推進することにより、京都観光における3つの分散（時間、季節、場所）等に寄与するとともに、区内の産業振興やまちづくりにつながります。

「こんな取組が実施されています！」

上京区では、上京区まちづくり円卓会議等によってつながった団体等により、西陣や東陣、名所・旧跡など様々なテーマで地域を巡るまち歩きが実施されるなど、区民が主体となった地域の魅力発信の取組が実施されています。



# ひとりひとりが輝き、希望の持てるまち

上京区では、明治期の番組小学校の創設以来、「地域の子どもは地域で育てる」という誇り高い育み文化の伝統と、福祉とまちづくりを一体的に進める学区を中心とした力強い福祉力が培われてきました。

一方で、社会構造の変化に伴い、ひきこもり、8050問題※、セルフネグレクト※といった、地域や社会におけるつながりや居場所を必要とする人や世帯も増加しています。

こうした課題を解決するため、上京区で培われてきた地域力を生かして優しさのあふれる共生の文化を推進し、誰もが、社会や地域から孤立することなく、互いに認め合い、希望を持ちながら、いきいきと暮らすことができるまちづくりに取り組みます。

※8050問題

80代の親とひきこもり状態の50代の子が同居する世帯の孤立化・困窮に伴う様々な問題。

※セルフネグレクト

介護・医療サービスの利用を拒否するなどにより、社会から孤立し、生活行為や心身の健康維持ができなくなっている状態。



## 方針1 誰もが居場所を持ち、いきいきと暮らすことができるまちづくり

上京区には、子どもや若者から高齢者、障害者、外国籍市民など多くの方が、お互いの立場、価値観及び文化等の違いを認め合いながら、日々の暮らしを営んでいます。

しかしながら、それぞれの垣根が全てないとは言えず、また、単身世帯の増加などによって「孤立」が大きな課題として顕在化してきています。

このため、新たな住民となる方も含めて、誰もが居場所を持ち、絆や交流の輪が広がる取組を推進します。

### 取組の具体例

お互いを尊重し、誰もが主役となれる取組の推進

ふれあい人権啓発事業の推進	地	区	市
「みんな仲間！上京文化芸術祭」等を通じた多様な人が文化芸術活動等を発表し合うことで相互理解を深める場の創出	地	区	市
若者や外国籍市民などが地域と交流する場や機会の充実	地	区	市

### 多様なつながりを育む取組の推進

小学生による敬老記念のお祝い訪問等を通じた世代を超えたつながりづくり	地	区	市
働く世帯が参画するまちづくり活動の推進	地	区	市
ひきこもりからの立ち直り支援の連携・充実	地	区	市
「こころの病がある方とその家族向け講座」の開催など、こころの健康づくりの推進	地	区	市
障害者の自立支援等を通じた社会進出を促す取組の推進	地	区	市
文通を通して育む若者と高齢者のつながりづくり	地	区	市
子ども食堂の実施など、誰もが安心して暮らす居場所づくり	地	区	市

## 方針2 子どもの健やかな成長と若者の活躍を応援するまちづくり

全国的に少子化が進行しており、上京区においても、年間の出生数が前区基本計画策定時から約3割減少するなど、急速に進んでいます。

少子化に歯止めをかけるには、子育て環境の充実はもとより、安心安全なまちづくり、若者の出会いの場づくり、企業や地域活動と若者のマッチングなど、産業振興や雇用の促進等も含めた総合的な取組が必要です。

また、ひとり親家庭やヤングケアラー※の増加など家庭を取り巻く状況の多様化が進む中において、子どもやその保護者への支援も求められています。

このため、将来にわたって、地域で子どもたちが健やかに成長し、安心して子育てをすることができる取組の充実や、若者の活躍を応援する環境づくりを進めます。

※ヤングケアラー

一般に、家族にケアを要する人がいる場合に、そのケアを支える人手が十分でないため、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どものこと。



取組の具体例

安心して子育てができる環境づくり

赤ちゃんお祝い訪問プロジェクト等を通じた子育て環境の充実	地 区 市
こんにちはプレママ事業・こんにちは赤ちゃん事業の実施	地 区 市
乳幼児健診や親子すこやか教室の実施	地 区 市
はぐくみだより等を活用した子育て情報の発信	地 区 市
「上京えんじえる ぎゅうっと ひろば」等を通じた子育て世帯同士の交流や安心できる居場所づくりの推進	地 区 市
地域における子どもの見守り活動の推進	地 区 市
子どもの心と体を守るための「食育セミナー」等の充実	地 区 市
ひきこもりや不登校児童を抱える家庭の相談を行う活動の支援	地 区 市
ひとり親家庭の支援	地 区 市

子どもや若者の成長を応援する取組の充実

上京の子どもまつり等を通じた地域や文化に触れる機会の充実	地 区 市
「中学生プロジェクト」等を通じた子どもが考えるまちづくり活動の支援	地 区 市

若者世代の定着につながる取組の推進

婚活を通じた出会いの場の創出（再掲）	地 区 市
地域企業と若者等とのマッチング機会の創出（再掲）	地 区 市

方針3

高齢者が生きがいを持てるまちづくり

区基本計画が終了する令和7（2025）年頃には、いわゆる団塊世代が75歳以上になるなど、高齢化が一層進行することから、高齢者の孤立防止、健康寿命の延伸や、生きがいづくりといった取組の推進が重要となつてきます。このため、高齢者がこれまで培ってきた知識や経験等を生かし、これからも地域の担い手として、社会や地域活動に参画できる場と機会の充実を図るとともに、住み慣れたまちで、慣れ親しんだ暮らしを送り続けることができるよう、生きがいづくりや健康づくりに取り組まします。

取組の具体例

高齢者の活動支援



高齢者の社会参加の促進	地 区 市
働き手や地域活動の担い手につなげる取組の推進	地 区 市
地域における「語り部活動」の推進（再掲）	地 区 市
ICT活用支援による高齢者の「学びの場」づくり	地 区 市
まちづくり活動支援事業等を活用した高齢者の自主的な活動の支援	地 区 市

健康寿命の延伸を目指すフレイル対策等の推進

上京区社会福祉協議会等と連携した高齢者の居場所づくり	地 区 市
地域と協働で取り組む健康づくり活動の推進	地 区 市
健康寿命をのびす「お・も・て・な・し」で取り組む「生活習慣病予防対策」と「フレイル対策」の推進	地 区 市

一人暮らしや認知症の高齢者等の見守り活動の推進

長寿社会における支え手の支援

一人暮らしや認知症の高齢者等の見守り活動の推進	地 区 市
家族をはじめとする支え手の相談体制の充実	地 区 市
支え手同士のつながりづくりの推進	地 区 市

芽が出る、広がるノリーディングプロジェクト

府・市・区協調で上京ソリデール推進プロジェクト

上京区では、長寿化の進行に伴い、男女ともに高齢単身者数が増加しています。「二人暮らし社会」が本格化する中で、周囲に頼れる家族等がない高齢者にとつて、買い物をはじめとする日常生活が困難になることが心配されています。

長寿化社会が進行する中、家族だけでなく、地域や若者が交流を通じて高齢者を見守る目を多く育てていく必要があります。

本事業では、地域事情に精通している地域の自治組織や区役所が、京都府及び京都市の各部署と連携し、京都府で取り組まれているソリデール事業（大学生の下宿マッチング）の更なる推進を図ります。



こんな取組が実施されています！

京都府では、若者（一人暮らしの大学生等）へ低廉で質の高い住宅確保と自室の「室を提供する高齢者との交流を図る、同居マッチングシステムを構築し、『次世代下宿「京都ソリデール」事業が実施されています。